

## リサ一チ

## 環境と調和した農業⑥

## 「地消地産」で有機を強化

農的社字デザイン研究所

鳥谷栄一氏

J A きふは、「地消地産」をベースに「みどり戦略部」を新設し、持続可能な農業の確立を目指して有機農業への取り組みを強化している。

J A は、岐阜市を挟んで、北は福井県境、南は愛知県・三重県の県境まで南北に長い地域を管轄。南北に流れる木曽三川沿いを中心に、中山間地域から市街化区域までを含む多様な地域営農が展開した。しかし、2000年からの15年間で管内の耕地面積は40・1%減少し、耕作放棄の割合も15年では17・6%に及ぶ。また農家数の減少も著しく、地域農業の維持、農地保全が最大課題となった。

こうした状況を踏まえ、J A は、管内を12エリアに分けて地域営農ビジョンを策定するなど、地域に根を張った活動展開を最重視。その思いは、2024年度の地域営農ビジョンの理念として「多様な農業者とともに、地域の農業を守り、豊かで潤いのある地域社会の実現を目指し、自然と都市の調和を図りながら地域ごとの特徴ある農業の維持発展を実現」を掲げた。

また「1.J A きふは農業者と対話します。2.J A きふは組合員と話合います。3.J A きふは、地域住民と繋がります。」の「三つの約束」に凝縮され「地産地消」ではなく「地消地産」を活動の基本に置くことになった。

脱炭素社会へ環境変化する中、J A 主導で「食と農の連携推進フォーラム」を立ち上げ、消費者の学習活動に注力する。22年には農福連携を図りながら、有機栽培技術の確立と有機J A S 認証の取得を目指す農家の育成に向けた「有機農業実践園芸塾」を開講。農地3・7畝を借りて「有機の里」とし、24年から有機栽培に取り組む。

J A は、食べて環境保全に関わりたいという消費者ニーズを受け、みどり戦略部の下に地消地産課、有機農業推進室を設置し、有機栽培による多品種少量生産で地域農業振興を進める。